



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：ケリー米 국무長官の訪問（2）

米国のケリー 국무長官は、12月4日から6日までイスラエルとパレスチナを訪問した。同長官の通算8回目の現地訪問である。ケリー 국무長官は、5日午前と夜にネタニヤフ首相と会談し、その間に西岸のラマラを訪問してアッバース大統領と会談した。ケリー 국무長官は、6日朝にネタニヤフ首相と3回目の会談をした後、イスラエルを離れた。

今回、米国は、西岸からイスラエル軍が撤退した場合の安全保障上の課題についての考え方をイスラエルに伝えた模様である。12月5日にケリー 국무長官がネタニヤフ首相と会談した際、米国のジョン・アレン中東和平特別顧問が、イスラエルの安全保障上の問題についての米国側の考え方を説明したと報道されている。アレン特別顧問は、アフガニスタンに展開するISAFの前司令官（将軍）で、今年春に海兵隊を退役した後に、ヘーゲル国防長官の顧問となり、中東和平特別顧問に就任していた。アレン特別顧問は、中東和平交渉には関係せず、パレスチナとの和平が成立した場合にイスラエルが西岸で直面する安全保障上の問題について検討していた。同特別顧問の活動については、ケリー 국무長官が時折言及していたが具体的な行動は発表されていない。今回ケリー 국무長官は、アレン特別顧問は、米 국무省、軍、情報機関の職員で構成される約160人のスタッフを率いていることを明らかにし、米国がこれほど本格的にイスラエルの安全保障問題の分析を行ったのは初めてであるとした。アレン特別顧問の考え方は、パレスチナ側にも説明されたと報道されている。

ケリー 국무長官は、12月6日時点で、協議で進展があったと述べた。同長官は、イスラエルを離れた翌7日、ワシントンのブルックリン研究所の中東政策研究所サバーンセンターで講演し、アレン特別顧問は、イスラエルとパレスチナの2国家構想の中での両国の安全保障上の問題を検討したことを強調した。ケリー 국무長官より前に同センターの会合に参加したオバマ大統領は、質疑応答の中で、アレン特別顧問は2国家構想の中でイスラエルが直面する安全保障上の重要問題は解決できると考えるようになっているが、それは彼の結論であり、決定するのはネタニヤフ首相及びイスラエル軍と情報機関であると述べた。

イスラエルとパレスチナから帰国したばかりのケリー 국무長官は、12月11日から9回目の現地訪問を行う。

（中島主席研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799